

阿蘇中部4町村名称の由来

合併推進協議会は五月十三日の第十一回協議会で、新市の名称を「阿蘇市」と命名することをきめました。今後は阿蘇市に向かつて協議を進めることとなりますが、ここでは、現在までの4町村の町村名の由来を紹介します。なおここで紹介する町村名の由来は、「熊本県市町村台併史（改訂版）平成七年三月熊本県総務部地方課発行」を参考文献としています。

一の宮町

宮地町、坂梨村、中通村、古城村が合併し、昭和二十九年四月一日より一の宮町となる。

和二十九年四月一日より阿蘇町となる。

●町名の由来

神武天皇の孫、建磐龍命をまつる肥後一の宮阿蘇神社が町の中心にあるところから「一の宮町」と名付けた。

●町名の由来

世界に誇る阿蘇山を擁しており、本町の象徴である阿蘇山とともに町の発展を実現すべく「阿蘇町」と決定した。

●村名の由来

古くから伝えられたところによると、村を貫流する清流産山川の上流に「乙宮」という部落があり、昔は「元宮」と称していたとのことである。この地に神武天皇の命を受け阿蘇経営に下られた建磐龍命がとどまられた時、同伴された阿蘇姫命が、速瓶玉命を出産されたということから、いつの世からか速瓶玉が、山にたとえられて「山が産まれた」と言われるようになり、のち「産山」と称されるようになったと伝えられている。

波野村

波野村、中江村、滝水村、小池野村、小園村、赤仁田村、新波野村が合併し、明治二十二年四月一日より波野村となった。

●村名の由来

明治五年に作成された戸籍帳によると「濤野村」、「浪

野村」と混記されているが「波野村」と名付けたのは、本村の地形が南北に波のように起伏しており、その形がさながら大波のうねりのように見えるところからきたものと推察される。
：とそれぞれの名称由来が記載されています。



阿蘇町

内牧町、黒川村、永水村、尾ヶ石村、山田村が合併、昭

産山村

産山村、田尻村、山鹿村、大利村、片俣村が合併し、明治二十二年四月一日より「産山村」となる。